



Leaf

平成20年4月
盛岡市三本柳6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 沼里 進

盛岡赤十字病院医療連携だより No.14

基本理念

私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。



盛岡赤十字病院「緩和ケア病棟」の設置計画

副院長兼

緩和ケア病棟設立準備委員会 委員長 旭 博 史

岩手県内には国の施設基準を満たす緩和ケア病棟は少ない。盛岡医療圏には現在、緩和ケア病棟が1か所しかなく、緩和ケア病棟を望む声が強くており、また、今年度から始まったがん対策基本法でも、緩和ケアが重視されているところです。

盛岡赤十字病院では、このような地域の要望に応え2年まえから緩和ケア病棟の建設を検討して参りましたが、今年になり敷地内に病棟設置の整備計画の概要がまとまりましたので、お知らせします。なお、この病棟設置案は、2月5日に日赤岩手県支部（支部長：達増知事）の評議員会で承認されました。

建設予定地は病院敷地内でC棟と日本庭園（逍遙游庭）の間の緑に囲まれた自然豊かな場所で、緩和病棟としてはまたとない環境です。北上川のほとりで、緩和ケア病棟にとり、最も重要な要素といわれている、水と緑と光のすべてが満ちあふれており、癒しの場所としてふさわしい環境に恵まれています。さらに、「もう一つの我が家」を意識した施設づくりを基本方針として、患者さまとご家族が、やすらぎを覚える生活の場であり、ご自分の家と盛岡赤十字病院の間にある心の支えの場所となるように、全室個室としました。

病棟の概要としては鉄筋コンクリート造り、平屋建て、建物面積1420平方い。病床数22床（うち特室：1床）、本院とは別に玄関を設け、回遊型の廊下、坪庭を配置し自然採光を取り入れた明るい住宅の雰囲気を意識しました。緩和病棟には必須となる多目的ラウンジ・面談室・家族室・食堂ラウンジ・キッチンコーナー・浴室（普通・特殊浴室）・ボランティア控室が設置されます。基本設計は終了しており、3月までに実施設計を終え、その後認可申請を行い、7月から着工し、工事期間約9ヶ月で来年の3月末で竣工、1ヶ月間の準備期間の後、5月開院の予定となっています。

診療に関しては昨年5月緩和ケアチームを立ち上げ、11月からラウンドを行っています。今年、緩和ケア科の認可申請を行い10月頃には緩和ケア外来を開設し、来年の入院に対応出来るように考えております。現在、緩和ケアになくってはならないボランティア活動のシステム作りを進めています。

緩和ケア病棟建設が地域医療連携を深め、お互いの役割分担が強化され、地域全体の医療の質が向上すると期待されます。本計画は20年前の病院移設以来の一大事業です、職員が一丸となって計画推進に当たっております。関係の皆様のご指導ご鞭撻のほどをお願いいたします。



病棟の3Dイメージ。金属屋根で方流れ造り、外壁は化粧打放しコンクリート、窓は断熱サッシ、玄関は木製ルーバー。

+ 禁煙外来開設のお知らせ +



呼吸器科部長 井上 千恵子

昨年11月より病院の敷地内が全面禁煙となったことにより、これまで保険が使えなかった禁煙指導が、保険適応となりました。これを受けて当院では新しく禁煙外来を設置し、毎週金曜日の午後2時から診察しております。

初回診察日には、呼気ガス中の一酸化炭素濃度を測定し、喫煙の健康に及ぼす影響等についての説明をします。これを受けて禁煙する事を決意したら禁煙宣言をして頂き、禁煙開始日を決めます。その開始日からニコチネル（ニコチン含有パッチ）を皮膚に貼って禁煙して頂き、2、4、8、12週後、全部で5回外来に診察に来て頂くこととなります。毎回呼気ガス中の一酸化炭素濃度を測定し、禁煙の状況について話し合いをします。ニコチネルは徐々に小さいものとなり、8週間でニコチネルは終了となります。

このニコチネルはニコチンを含有しているのですが、ニコチンの離脱症状が軽減され、比較的楽に禁煙出来るとされています。またご家族の支援も大切で、これまでいらした患者様はご家族から大変喜ばれている、とおっしゃっております。

診察と言いましても、患者様の禁煙したい気持ちを助けて、離脱症状と一緒に解決していくようにお話し合いをする外来です。

- ・ 決断したら、即実行しましょう、禁煙を！
- ・ 自分と家族、周囲の方の健康を守るために！

スタッフ一同禁煙の達成のお手伝いをさせて頂けるようお待ちしております。

禁煙をお考えの患者さまが居られましたら是非とも私どもへご紹介下さいますようお願い申し上げます。

***** + 新任医師紹介 + *****



平成19年9月

産婦人科副部長 菅原 英治 (すがわらいじ)

この度、9月18日から約一年振りに産婦人科に勤務させていただいております。昭和62年11月より平成18年9月まで在籍させていただきました。院長先生や副院長先生方のご厚情を受けまして感謝の毎日です。バブル景気のころからの日赤の状態をよく知っております。今般の医療界、特に産婦人科を巡る諸問題に関して、本当に時代の流れに思いを致さざるを得ません。自分の守備範囲を自覚し少しでも病院のために貢献（微力です本当に）できればと考えています。



平成20年1月

産婦人科副部長 船越 真生 (ふなこしまおい)

出身：岩手県出身大学：秋田大学医学部

平成4年に秋田大学医学部を卒業後、そのまま秋田県で産婦人科勤務していましたが、昨年盛岡市の実家に帰ってきました。このたびご縁があり昨年12月末から勤務させていただいております。隣の県とはいえ。母校と岩手医大とはやはり「異文化」という感じです。不慣れや至らないことも多くご迷惑をおかけしますが、よろしくお願いいたします。



平成20年4月

泌尿器科部長 福田 孝 (ふくだたかし)

栃木生まれの秋田育ちです。昭和55年秋田大学卒業の泌尿器科医で泌尿器科と人工透析の専門医・指導医の資格があります。中でも専門は排尿障害で、排尿に関しては日本排尿機能学会の評議員と日本脊髄障害学会の理事をやらせていただいております。脳血管障害や脊椎疾患による神経障害によって生じる排尿困難者の自力排尿を可能にするための内視鏡手術やリハビリテーションも行っています。地域医療に貢献できればと考えています。



平成20年4月

呼吸器科副部長 加藤 さくら (かとうさくら)

平成20年4月1日より、呼吸器科に勤務しております。県立宮古病院へ出張のため一昨年4月に盛岡赤十字病院を離れ、その後岩手医大第三内科に移りまた戻って参りました。日赤には嘗て平成13年10月から勤務していたので長くお世話になっていたのですが、離れていた間に呼吸器科病棟の位置や内視鏡センターの設置など変化も多くあり少々戸惑っています。電子カルテの扱いも漸く思い出しつつあるところです。宜しく御指導の程お願い申し上げます。

盛岡赤十字病院が日本栄養療法推進協議会(JCNT)から「NST稼働施設」として認定を受けました。



NST専門栄養士
鈴木 聖子

盛岡赤十字病院では、NST (Nutrition support Team : 栄養サポートチーム) を2006年から稼働しております。このことは以前本冊子 (Leaf No12) で詳しく報告いたしました。この度その成果をみとめられ、日本栄養療法推進協議会 (JCNT) 「NST稼働施設」認定を2007年9月1日に受けました。岩手県内ではこれまでに6施設認定を受けており、第二回となる今回は (申請総数256施設のうち認定施設189施設)、県内では2施設が認定となりました。

「NST (Nutrition support Team : 栄養サポートチーム) は近年注目を集め、全国各地の医療機関で急速に設立されています。医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師などの多くの専門職種から構成され、栄養療法の推進や臨床栄養の適正化の立場から患者様へのチーム医療を目指すものです。栄養療法の提供を行う上で、NSTはきわめて優れた手法であり、今後一層の普及していくものとおもわれます。

こうした現況を踏まえ、日本独自の質の高いNST活動をより有機的に発展させ、適切な栄養療法を全国の医療機関・施設に推進・普及するため、第三者機関として「日本栄養療法推進協議会 (日野原重明理事長)」が2004年に設立され、NST稼働施設の認定を行っており、今回その基準を充たして、当院も認定されました。

当院NSTは、31名で構成され、入院時栄養スクリーニングであげられた症例、担当医から依頼された症例に、週一回ラウンドを行っています。

また、依頼の多い摂食・嚥下障害や栄養管理の在宅・転院・退院支援 (外来NST) に対しては、ワーキングチームを作り、取り組んでいます。今後は、地域全体でネットワークをつくり、単なる医療連携ではなく栄養療法の連携つまり「地域一体型NST」を確立することが望まれます。当院では、「地域一体型NST」の一部であるPEG (経皮内視鏡的胃瘻造設術) 地域連携パスを昨年より開始しています。退院サマリーに身体計測結果、必要栄養量、現在投与している内容等を記載する部分を設け、栄養管理内容が紹介元の施設に正確に伝わるようにしています。

患者様が病院、施設、在宅でも共通して、適切な栄養療法・管理を受けることができるよう、今後も地域の医療機関、施設等の皆様と協力して、栄養サポートを実践していきたいと思っております。

栄養に関するご相談はいつでも受け付けております。医療技術部栄養課あるいはNSTスタッフにご連絡いただければ幸いです。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。



平成20年4月
消化器科医師 柴田 将 (しばたしょう)

平成20年4月より盛岡赤十字病院消化器科勤務となりました。おもに消化管内視鏡検査と治療に携わっていきたくて思っております。地域の先生方と連携し患者様の治療にあたりたいと思っております。ご指導のほどよろしくお願いいたします。



平成20年4月
整形外科医師 佐藤 正義 (さとうまさよし)

4月1日よりお世話になることとなりました整形外科医の佐藤正義と申します。生まれは、岩手県の沼宮内であります。その後、沼宮内小学校→沼宮内中学校→盛岡第一高校→金沢医科大学と進学し、医師となつてからは愛媛大学医学部附属病院→済生会松山病院 (愛媛県) →愛媛県立中央病院で勤務し、昨年は帰郷し地元の岩手医科大学病院で勤務いたしました。趣味はサッカー、フットサルです。帰郷当初は、関西なまりがすこしありましたが1年で完全に岩手弁 (沼宮内弁) に戻りました。いろいろと迷惑をおかけすることも多いかと思っておりますが宜しくお願い申し上げます。

退職されました。

佐藤 健 (産婦人科医師) 平成19年7月31日付	岡田 一 敏 (麻酔科部長) 平成20年3月31日付 (定年退職)
瀬川 裕 (麻酔科副部長) 平成19年8月31日付	長谷川 道 彦 (泌尿器科部長) 平成20年3月31日付
宮本 康 弘 (消化器科医師) 平成19年9月30日付	高橋 進 (呼吸器科副部長) 平成20年3月31日付
武田 雄一郎 (外科副部長) 平成19年12月31日付	菅原 敦 (整形外科医師) 平成20年3月31日付
高木 亮 (消化器科副部長) 平成19年12月31日付	

お世話になりました。

(なお、定年退職された岡田一敏先生は、常勤嘱託医として、引き続き当院にご勤務いただいております。)